

○音楽科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和3年度授業改革プラン 入新井第一小学校）

\* 2年度の改善プランの検証

2年度はコロナ禍の影響もあり、音楽の授業も大きく影響を受けた。改善プランはたてたものの、歌唱や吹奏楽器に関しては、安全に配慮しながらの取り組みとなったため、プラン通りに遂行することが困難な場面も多かった。そのような状況の中、打楽器演奏や手拍子での演奏、鑑賞の充実など、今までとは違う教材を取り扱うことにより、児童の表現力の向上を目指した。意欲的に取り組む児童がいる一方、技能の習得につまづく児童も見られ、表現力にばらつきがあった。今年度もコロナ禍での音楽の授業となる中、まずは楽器演奏などの基本的な技能の習得を改善の中心に据えていきたいと思う。

\* 3年度の改善プラン

観点	学年	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案
知識・技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>鍵盤ハーモニカの演奏には意欲的だが、指遣いや少し難しい曲の演奏に関して、児童によって差がある。</li> <li>大きな声で歌えているものの、ひびきのない声で歌っている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指の使い方や教材の提示の仕方について工夫が必要である。</li> <li>声の出し方の指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常時活動で指だけを動かすゲームをしたり、1小節ずつなどスモールステップで取り組むようにする。</li> <li>教師が歌ったりCDを聴かせたりして、良い声のイメージをもたせる。</li> </ul>
	二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム表現に楽しく取り組んでいる。</li> <li>鍵盤ハーモニカの演奏は、一生懸命に取り組んでおり、1年生の時より難しく長い曲にも取り組めるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムが曖昧であったり、拍がずれたりしている児童がいる。</li> <li>タンギングや指使いに課題がある児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体表現を取り入れ、拍を感じることを実感させる。</li> <li>指使いの練習を活動として行い、指くぐりや指またぎを滑らかにできるようにする。</li> </ul>
	三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に合わせて元気な声で歌うことができる児童が多い。</li> <li>鍵盤ハーモニカは拍の流れにのって演奏でき、難しい指使いに対応できる児童が多い。</li> <li>リコーダーは、指の動かし方に慣れて、簡単な曲を演奏できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地声を強く出してしまう児童が数名見られる。</li> <li>息が強すぎたり、タンギングがうまくできない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選曲を工夫し、やさしい声で歌える曲を表現したり、歌詞の内容を味わって表現できる授業を行う。</li> <li>タンギングの例を何度も聴かせたり、マスク吹きでタンギングの感覚をつかんだりする。またろうそくの画像を用いて、正しい息の使い方を意識させる。</li> </ul>
	四年	<ul style="list-style-type: none"> <li>響きのある声を意識しながら歌える児童が増えてきた。</li> <li>リコーダーはサミングや低い音の拭き方を覚え、簡単な曲を演奏できるようになった。</li> <li>強弱記号の意味を覚えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地声で押し出そうとする児童がいる。</li> <li>リコーダーの技能が周りに追い付かず戸惑っている児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選曲を工夫し、やさしい声で歌える曲を表現したり、歌詞の内容を味わって表現できる授業を行う。</li> <li>指遣いの記号を用いたり、テレビに映して演奏の流れを示したりして、視覚的に理解できるようにする。</li> </ul>
	五年	<ul style="list-style-type: none"> <li>無理のない発声でしっかり歌うことが出来る児童が多い。</li> <li>器楽合奏を楽しんで取り組む児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱に関しては、少し迫力が足りない面が見られる。</li> <li>役割を考えて演奏することができない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸や口の開け方などをカードやテレビで提示し、視覚的に理解できるようにする。また高音の響きが得られやすい教材を扱う。</li> <li>音楽の仕組みについてワークシートや鑑賞などで説明し、理解させる。</li> </ul>
	六年	<ul style="list-style-type: none"> <li>無理なく、響きのある歌声で歌える児童が多い。</li> <li>拍の流れにのってリコーダや一器楽合奏を演奏することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌うことを恥ずかしがる児童がいる。</li> <li>役割による自然な強弱がついていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰にでも取り組める歌や気分が明るくなるような曲を扱い、楽しんで歌うことができるようにする。</li> <li>正しい演奏の仕方を例で示したり、節奏を聴かせたりして、強弱を理解させる。</li> </ul>
	一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の気分に合わせて元気な声で歌ったり、やさしい声で歌ったりすることができる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな曲でも大きな声で歌ってしまう児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>範唱や教師の歌声をじっくりと聴かせ、イメージや考えたことなどを発表し、どのように歌ったらよいか考える活動を取り入れる。</li> </ul>
	二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の気分に合わせて歌ったり演奏したりする児童が多い。</li> <li>音楽の要素を感じながら鑑賞できる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴奏に合わせられない児童がいる。</li> <li>語彙が少なく、いつも同じ言葉で感想を述べる児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴奏の音を大きく提示したり、手拍子や身体表現をしながら活動して、全体で拍を共有する。</li> <li>言葉のヒントをたくさん提示し、どんな言葉で表現したら良いか考えさせる。</li> </ul>

音 楽	思考・判断・表現力等	三年	・曲の気分や強弱を考えて歌ったり演奏したりする児童が多い。	・歌の強弱などを意識せず、いつも大きな声で歌ってしまう児童がいる。	・教師が指揮をして強弱や曲の気分を表現し、それに合わせて歌う活動を取り入れる。 ・楽曲の様子をイラストで表したりして、表現のヒントにする。
		四年	・強弱や曲の気分に合わせて、音色を考えて表現する児童が多い。	・思いをもたず、ただ歌っていたりただ演奏したりしている児童がいる。	・歌詞の意味や演奏の役割などをワークシートなどで説明し、どのように表現したらよいか思いや意図を育み、言葉で表現したりワークに記入したりする。
		五年	・曲想を考えて表現したり、つくったりする活動を楽しんで行う児童が多い。	・曲想を考えていても、技能が追い付かず、表現に変化が付けられない児童がいる。	・教師が範奏で表現の違いを理解させる。また、技能が身に付きやすいように、教科書の曲をアレンジしたり、ポイントになる部分を楽譜に書き込んだりする。
		六年	・曲想に合う響きを考え、器楽合奏では適切なマレットや音色を考えて演奏する児童が多い。	・どのような音色が適切か考えることに戸惑う児童がいる。	・様々な音色を聴かせ、音色による表現の違いを感じ取らせる。また周りとも思いや意図を伝え合い、どのように表現したら良いか考えさせる。
主体的に学習に取り組む態度	一年	・歌やリズム遊び、鍵盤ハーモニカの演奏に楽しく取り組んでいる。	・鍵盤ハーモニカは、めあてを意識しているが技能が追い付かない児童がいる。	・児童の実態を把握し、適切なめあてをもたせながら取り組ませる。レベルごとにめあてをもたせ、どこまで取り組んだら良いか目標をもって活動できるようにする。	
	一二年	・歌や鍵盤ハーモニカ、簡単な打楽器を使って演奏することにも進んで取り組んでいる。	・どのように合わせて表現したらよいか分からず、戸惑っている児童がいる。	・教師の範奏で元気な音、やさしい音など音色の違いを理解させ、どのような音色を選び出して表現したらよいか考えるヒントにさせる。	
	三年	・音楽の表現に楽しく取り組んでいる児童が多い。	・自分の表現に集中してしまい、周りや調和させられない児童がいる。	・グループで分けて練習したり、ペア学習を行ったりして、身近な人と合わせる意識をもたせる。どのような音色で表現したら良いか考え、工夫しながら取り組むようにする。	
	四年	・歌うことや演奏することを楽しんで取り組んでいる。	・めあてをもって取り組んでいる児童が多いが、教師の働きかけがないと取り組めない児童もいる。	・どのように歌うか、どのように演奏するかについて提示すると同時に、思いや意図を言葉で表現させ、具体的な表現の手立てへとつなげられるようにする。	
	五年	・音楽の活動に意欲的に取り組み、楽しみながら歌ったり、演奏したり、つくったりしている。	・教師の指示がないとどのように活動して良いかわからない児童が多い。	・毎時間のめあてや活動の手順をしっかりと示すと同時に、どのように表現するかについて発表するなどして、自分から主体的に音楽活動に取り組むようにする。また、自分の取り組みについて振り返りもしっかり行うようにする。	
	六年	・音楽のどの活動にも意欲的に取り組み、上手に表現できる児童が多い。	・楽譜通りの演奏で満足してしまう児童がいて、自分なりの思いや意図をもつことができない児童がいる。	・教師の範奏を聴かせ、どのように表現を深めていくか考え、発表させる。また、おさらい・復習を行い、過去に取り組んだ楽曲での活動をヒントにして、自分の表現に生かすようにする。	